

2019年度 信愛会本部 事業報告書

① 理事・評議員会等の開催内容

2019年	5月	平成30年度 法人監事監査（顧問公認会計士立合い）
	6月	①理事会：決算事業報告等 ②定時評議員会：決算事業報告・理事監事改選
	12月	第一次補正予算（借入金返済条件変更・物品購入・修繕費等）・中間報告事項
2020年	3月	第二次補正予算（介護報酬及び措置費収入等の実績精査）・次年度予算計画等

② 主な活動報告

平成31年	4月	※ 養護施設への自治体による措置控え顕著化問題提起・相談等 （県老協養護部会・国会議員・県議・町議等に説明し、継続的に報告） 法人全体研修①チームワーク向上研修（麻生教育委託） 委託給食会社（昭和イーティング）変更届（粕屋保健所） 特養施設利用者家族利用料変更等説明会（篠栗荘） 新入職員等へのオリエンテーション（初期教育開始） 全職員へ諸規定・方針・福祉業界動向の周知（各施設） 施設従事者相互保険更新（社会福祉振興試験センター・ジブラルタ生命）
令和元年	5月	特養施設入所判定会議：上期開催（特養施設長・統括部長・相談員・第三者委） ソウェルクラブへの各種申請（福利厚生センター） 決算報告・事業報告・監事監査等（法人本部） 措置施設支弁月額報告（粕屋福祉事務所） 退職共済職員名簿提出（福祉医療機構） 軽自動車免税申請（篠栗町役場） 全職員健康診断（医療情報財団）
	6月	法人資産変更・理事長重任登記申請（福岡法務局） WAM事業報告データ送信（福祉医療機構） 社会福祉法人現況報告データ送信公表（福岡県庁HP） 法人役員賠償責任保険更新（FFGIほけん・損保ジャパン） 公益法人等収支計算書類提出（香椎税務署）
	7月	夏祭り開催（当年度より各施設館内行事とする） 診療所（特養医務室）立入定期検査（粕屋保健所） 配置医師等報告電子申請（福岡県庁HP） 法人一括車両フリート保険更新（福岡保険・あいおい損保） 信愛会ホームページ情報公開更新（全国経営協公開システム等も同時更新） 福岡労働局「ユースエール認証」取得（若者雇用定着促進） 夏休み認知症キッズサポーター養成講座：町社協主催（小学生30名対象・統括部長講師）
	8月	夏休み小学生福祉教室：町社協主催（篠栗荘デイサービスセンター見学体験） 施設建物定期点検報告（委託業者より所轄団体へ報告） 介護サービス公表システム情報更新（福岡県庁HP） ※養護施設への自治体による措置控え及び地域福祉問題意見交換会（法人本部） （宮内自民党副幹事長衆議院議員・西尾公明党県議）（富永立憲民主党県議・他町議等） ※養護施設職員に措置控え問題等への対応状況説明（業務執行理事・事務長） ※WAM施設借入金返済条件変更承認（福祉医療機構）
	9月	敬老祝賀会（各施設にて開催） 認知症関連講演及びサポーター講座：町内老人クラブ主催（特養施設長・部長講師） 法人一括施設財産包括保険更新（福祉共済会・あいおい損保） 施設防犯研修：県老協北ブロック主催（篠栗荘会場・県警粕屋署員指導）

10月 介護サービス事業所調査票提出（厚生労働省）

赤い羽根共同募金活動：全職員からの募金を篠栗町支会に提出

インフルエンザ予防接種等の感染症予防策開始（全職員・利用者等）

ユニ・チャーム排泄ケア研修会（特養介護職対象）

11月 法人全体研修②介護技術向上セミナー（麻生教育委託）

特養施設入所判定会議：下期開催（特養施設長・統括部長・相談員・第三者委）

認知症サポート講座：対象オアシス篠栗内業者スタッフ（町社協主催・部長講師）

認知症介護講座：対象介護をしている家族（町地域包括主催・部長講師）

12月 歳末たすけあい募金活動協力

福祉医療機構へ中間報告（返済条件変更につき）

令和 2年 2月 ふくおか医療機能情報ネット（医務室登録更新）

3月 デイサービスセンターの行政財産使用許可申請（オアシス篠栗1F）

各施設賠償保険更新（福岡保険・あいおい損保）

福岡県「子育て応援宣言企業」「エコ事業所」登録継続

福岡県「若者しごとサポート・30代チャレンジ応援企業」登録継続

福岡県「飲酒運転撲滅宣言企業」登録継続（ポスター・交通安全のぼり設置等）

粕屋保健所「禁煙宣言施設」登録は、法改正により、原則敷地内禁煙となり終了。

※2月下旬より、新型コロナウイルス感染症が世界中で流行。施設面会制限・デイサービスの利用縮小、衛生品の確保等の予防対策を強化。（4月には緊急事態宣言発令）

④ 福祉医療機構からの借入金償還報告 ※返済条件変更承認（下半期）

平成15年時 敬光園移転新築時分 元金（据置き 年 735万円） 0円 利息 380,621円

平成22年時 篠栗荘移転改築時分 元金（据置き 年1863万円） 7,785,000円 利息 3,557,328円

④ 情報公開・指定更新・地域貢献・人材育成への対応

- i パンフレットや広告等に加え、法人ホームページの事業案内・理念方針・個人情報保護・苦情解決体制・定款・財務諸表・事業計画報告・監査報告・役員一覧等の現況データ適時更新
- ii 介護保険事業所（特養篠栗荘・併設ショートステイ・デイサービスセンター・ケアプランセンター）は、「介護サービス情報公表制度」に基づく公表データ毎年更新（平成18年度より）
- iii 介護保険事業所（特養篠栗荘・併設ショートステイ・デイサービスセンター・ケアプランセンター）の指定更新（令和2年より6年間有効）

※ 地域社会貢献活動について



【地域の社会福祉法人との連携強化：糟屋中部会の障がい者支援に清掃委託雇用、篠栗町社協主催の認知症サポーター養成講座や小学生福祉体験、募金活動等に協力。また、福岡県社協管轄の「ふくおかライフレスキュー事業」に参加し、旧施設をリユース品倉庫として無償提供】共同募金（全職員からの募金+自販機売上一部）・歳末たすけあい募金・飲酒運転撲滅宣言登録等による交通安全活動・エコ事業所登録による省エネ活動等々

※ 福祉人財育成について



【信頼と共感のもてる職場づくりの方針を掲げ、新入職員へ初期教育・勤続職員への待遇改善・労務関連規程更新・内外研修促進・資格取得支援・業務省力化等による労働環境の充実】地域の小中学生への福祉教育・教職課程大学生の介護等体験・各種専門学生の実習受入・若者しごとサポート30代チャレンジ応援登録・子育て応援宣言登録・2019年ユースエール認証取得・各施設に応急手当普及員配置・特養職員に喀痰吸引研修・介護職に県や医師会等主催の介護技術研修・居宅支援職に認知症研修・協力歯科による口腔ケア指導・消防署や防災業者による定期防災訓練等々



☆ 信愛会職員能力向上プロジェクト ☆ 【資格取得支援】

平成27年度 実績	社会福祉士 1名 ・ 介護福祉士 2名 ・ ケアマネ 1名 合格
平成28年度 実績	社会福祉士 1名 ・ 介護福祉士 1名 合格
平成29年度 実績	介護福祉士 1名 合格
平成30年度 実績	介護福祉士 1名 合格

※ 資格取得者には、福利厚生センター（ソウェルクラブ）からの記念品進呈と、給与規定による手当増額等があります。（対象者の3年未満の退職累計4名）

2019年度 介護保険事業報告 (特養施設・ショートステイ・ケアプラン・デイサービス)

(概要①) 特別養護老人ホーム 篠栗荘 (介護老人福祉施設) 定員 52名

※2名はショート空床特例入所

年間延利用者数	17,669人
月平均利用者数	48.3人
月平均延利用者数	1,472.4人
月平均稼働率	92.84%

保険者	篠栗町が78%
-----	---------

年間入所者	16名
年間退所者	15名

平均要介護度	4.02
平均年齢	87.8歳

・利用者で負担軽減を受けている方・・・63%

- 平均要介護度は前年度4.17から微減した。
入所をしなければ生活が維持できない特例入所の方(要介護2)を2名受入れた事が原因であると考えられる。
他の方については、要介護4や5の方が多く、要介護度が4を下回る事は今後無いと考えられる。
入所待機者は要介護3以上の方に限定すると50名程度で、減少傾向にある。
入所待機者となっても、入所が不可能な状態であったり、他施設に入所したりという状態で、実際の入所待機者はほぼ0という状態である。
糟屋郡内の特別養護老人ホームはどこも同様の状態である。
- 稼働率は、過去29年度91.78%、30年度91.57%と比較して少しだけ改善した。
入院日数は前年比68.98%で減少しているが、退所の方が増加したのに対し、入所の方が中々決まらなかった事が稼働率低下の原因と考えられる。
今後も待機者増は望めないため、更に魅力ある施設作りをして行かなければならない。
- 新規入所の方を含め、篠栗町の方が78%で相変わらず多い。
新規の入所申し込み者も篠栗町の方が圧倒的に多い。
- 負担軽減を受けている方は63%となっている。2割負担の方も居た。

(概要②) 併設ショートステイ事業 (短期入所生活介護) 定員 8名

年間延利用者数	2,084人
月平均実利用者数	16.91人
月平均延利用者数	173.66人
月平均稼働率	71.17%
1日平均利用者数	5.7人

要支援・要介護状況

要支援1	0%
要支援2	1.0%
要介護1	40.9%
要介護2	23.6%
要介護3	14.3%
要介護4	19.7%
要介護5	0.5%

平成29年度は稼働率84.7%、1日平均7.4人であった。
年度後半にレギュラーの利用者が入院したり、他の施設へ入所する事が重なり、稼働率が低下した。
今後も、稼働率アップのために、魅力ある施設作りをして、利用者確保に努めなければ

ならない。

(各部門要旨①) 介護・看護・栄養部門報告

※ 看護・介護・栄養・相談の3部門が一体となり、より良い統一したサービスの提供に努めた。

- ・ 基本的介護の充実
- ・ 委員会・部会の活用
- ・ 感染症・褥瘡予防
- ・ 委員会・部会による施設内研修の充実。外部講師の活用。
- ・ 事故防止・身体拘束廃止
- ・ ケアプラン、栄養ケアマネジメントの充実
- ・ 高齢者虐待防止
- ・ 家族との連携強化

※ 施設の機能を有効に活用できる様に、業務の見直しを継続した。

- ・ 活動の単位を全体・フロア・ユニットと分けて考え、ゆったりとした雰囲気を作れる様に努めた。

※誕生会・茶話会・喫茶・デザートバイキング等の行事が充実し、定着している。

ただ、おやつを食べて頂くというだけの行事ではなく、利用者の皆様に楽しんで頂くという意識になっており、それが更に行事の充実につながっている。

- ・ イオン発生機器や空調機能、消毒機による全館消毒により、感染症予防に努めた。
- ・ 清潔と不潔の区分を明確にし、感染症予防に努めた。
- ・ 年末に一斉の大掃除を徹底し、環境整備に努めた。

※ 加算維持のために、体制の強化を図った。

- ・ 訪問歯科医、歯科衛生士との連携を強化し、口腔ケアの充実を図り、口腔機能維持管理体制体制加算の維持を図った。

※ 感染防止のための体制強化を行った。

- ・ 予防接種（肺炎球菌ワクチン、インフルエンザ）の徹底
- ・ 施設内研修の強化（ガウンテクニック実習等）
- ・ 「疑わしい症状には徹底的に対応する」を徹底し、ガウンテクニックによる消毒の徹底と通院等の医療機関との連携を徹底し、一時的隔離による拡散防止を図った。
- ・ 家族、ボランティア、実習等への協力要請の強化
（注意喚起文書の配布、玄関先での手指洗浄・消毒の徹底、体温測定と面会制限の徹底）
- ・ 次亜塩素酸ナトリウムによる毎日の廊下の拭き上げ、手摺や椅子の消毒を徹底した。

※フロア会議を充実させ職員間の連携を強化した

- ・ 平成26年度から実施している各階毎のフロア会議を更に強化して、職員間の連携を図った。
- ・ フロア会議は伝達ではなく、話し合いの場として、全員が意見を言い合える様な雰囲気作りを行った。結果、新人職員等からも意見が多く出るようになり、自主性へとつながっている。
- ・ 部門代表者会議を創設して、部門間の連携強化に努めた。

(各部門要旨②) 各種部会・委員会等の報告

(1) 食事・口腔ケア

- ・多職種参加の栄養会議、栄養ケアカンファレンス、ケースカンファレンス、感染症・褥瘡防止委員会、食事・口腔ケア部会、フロア会議により、より良いサービス提供について話し合い実行した。
- ・食事個別シート
前期は1ヶ月に1人のペースで更新又は作成を行えた。後期は2～3ヶ月に1人と作成のペースが落ちた。又、状況に応じての更新や活用が不十分であった。
- ・食事摂取量表の活用
摂取量の記入方法は全員で共有し統一できた。備考欄の活用も少しずつではあるが増えてきている。引き続き活用していく。
- ・部門間の連携
各部門間の連携が取れる様に努めたが、上手く行かない場面も多くあった。
又、検討後の周知徹底も不足していた。更に連携を強化して行く必要あり。
- ・口腔維持管理体制加算
歯科衛生士より指導を受けた職員は理解し実践できていた。しかし、他職員への周知徹底が不足していた。記録の振り返りについても不足し、口頭報告が多かった。
- ・口腔ケアの徹底
口腔ケアに対してスタッフの介入ができ、徹底出来てきている。
自力で行う方への介助も力を入れている。
- ・ゆとりある介助
食事介助・口腔ケアでは、利用者の重度化も進み、食事介助が必要な方も増え、介助を待って頂かなければならない利用者の方もおり、ゆとりある介助はできていないのが現状である。

(2) 入浴・清潔

- ・多職種参加のケースカンファレンス、感染症・褥瘡防止委員会、入浴部会、フロア会議により、より良いサービス提供について話し合いを行い実行した。
- ・入浴機器の不具合は報告が遅滞なくなされており、入浴に支障が出る事は少なくなっている。
- ・機械浴の入浴方法がより安全な方法に変更になり、研修を行う事で周知徹底を行う事ができた。
今後は、リフト浴や個浴についてもより良い方法へ検討を重ねていく。
- ・入浴スケジュールの管理については、状態や個別対応を考えながらこまめに更新し、スムーズに入浴を行う事ができている。職員の急な勤務変更にも柔軟に対応をしている。

(3) 排泄

- ・多職種参加のケースカンファレンス、感染症・褥瘡防止委員会、排泄ケア向上部会、フロア会議により、より良いサービスの提供について話し合いを行い実行した。
- ・個々人の排泄時間や使用物品の検討を継続した行い、より有効で効率的な排泄介助の提供に努めた。（使用物品のコスト管理にも努めている）
- ・排泄物品の定期的見直しを行い、ユニ・チャーム製品に統一し、新しく開発された製品も試用期間を経て導入している。殿部の状態も改善している。
- ・ウォシュレットの活用に努めて、陰部や殿部の清潔保持に努めた。それに伴って、尿路感染症の防止ができてきている。（利用者の方々にも定着している）
- ・排泄に関する研修（オムツ交換や陰部洗浄等）を実習形式で実施し、統一した、より良い排泄ケアの提供に努めている。
- ・随時、業者のインストラクターと排泄ケアの検討を実施している。

(4) 行事・レクリエーション

- ・誕生会、茶話を各ユニット毎に行い、少人数でゆっくりと楽しめる雰囲気作りを行った。
- ・フロア、ユニット毎にレクリエーションや喫茶を行い、ゆっくりと楽しめる雰囲気作りを行った。
- ・全体行事も1F、2Fの食堂を使い分け、その行事に合った雰囲気作りができた。
- ・少人数でのドライブ、園庭の散歩、園庭やテラスでのお茶の時間等を天候に応じて随時行い、ちょっとした楽しみの提供に努めた。
- ・月々の掲示物や飾り等をフロアやユニット毎に工夫して雰囲気作りに努めた。（月々の担当による個性があり、利用者や家族も楽しみされている）

※担当する職員により差があったり、まだまだ何も無くぼんやりと過ごして頂かなければならない日も多くあるため、今後、更にレベルアップに努めていく。

(5) 感染予防

- ・多職種参加の感染・褥瘡防止委員会で話し合いを行い実行した。
- ・に体調の変化を観察し、早期発見・早期対応（受診、入院等）に努めたが、部門間の連携が取れず、又、協力病院からの協力が得られず、手間取る場面が多くあった。
- ・手指消毒、手指洗浄を確実に行うよう努めた。
- ・ノロウイルス、インフルエンザ等の感染症について、予防の為の実地研修を実施して周知徹底を図った。（吐物処理やガウンテクニック実習、手指洗浄の方法等）
- ・感染を水際で防止するために、家族へは3回に渡り注意喚起の文書を配布し、実習生には、事前の主催者とのやり取りを綿密に行い、ボランティアの方々には事前の連絡の徹底を実施して、感染の可能性がある方の館内立ち入り制限と、玄関での手指洗浄・消毒、体温チェック、必要時のマスクの着用を義務付けた。又、短期入所利用者へも、家族やケアマネジャーへの文書配布と事前の連絡の徹底を行った。又、利用初日には入館時にバイタルサインと状態のチェックを徹底して、必要に応じて、一時的隔離や受診を検討した。

※インフルエンザやノロウイルスという診断は全く無かったが、3月に入り、新型コロナウイルスへの対応をしなければならなくなり、検温の継続や必要に応じた居室での対応、面会制限等、気の抜けない日々が続いている。

※令和2年4月以降の対応（緊急事態宣言や近隣での感染報告を受けて）
緊急法人管理職会議を開催し、クラスターと呼ばれる集団感染が発生した場合の
対応や方針について、情報共有を図っている。現在、それに基づき準備と対応を
進めている。行事等を控えたり、面会禁止措置、健診延期等も行っている。

（6）リスク管理

- ・多職種参加の事故防止・身体拘束廃止委員会を中心に話し合いを行い実行した。
 - ・事故報告書やヒヤリハット報告書の集計と内容の検討を行い、職員会議での委員会報告を行い、職員に注意喚起を行った。
 - ・センサーマットの適切な活用のために記録を継続し、使用の可否について検討を継続している。
 - ・座位姿勢や臥床位置等について、ケースカンファやフロア会議等で検討を行い、写真を活用して、周知徹底を図り、事故防止に努めた。
 - ・相談員、看護職が中心となり、家族や代理人への説明を適宜行ったり、トラブル発生時の対応を適切に迅速に行う事で、事故を事件にしないように努めた。
 - ・事故防止・身体拘束廃止委員会が中心となり、緊急時や事故発生時の対応例をわかりやすく説明した。
 - ・事故報告書をレベル別に分けて、より分かりやすく、今後の事故防止に役立てやすく改善した。
 - ・ヒヤリハット報告書を簡易なものにし、よりたくさんの気づきが出るようにした。
- ・相談員と事故防止委員会（リスク委員会）によるリスクマネジメント研修を年3回実施し、リスクへ対する知識の獲得と意識の醸成に努めた。

※体制作りは実施しているが、職員による意識の差があり、統一した対応の定着は
今後も継続しての課題である。

※身体拘束廃止に関しては、来年度からの報酬改定で厳しくなっていく為、更に充実させて
行く必要がある。
家族が身体拘束を強く望まれ、説明をしても納得されない場合もあり、今後の対応を
検討して行く必要がある。

（7）記録管理

- ・多職種参加の認知症対応委員会やフロア会議等を中心に話し合いを行い実行した。
- ・週間看護・介護記録の記入の徹底と有効活用ができるように努めた。
- ・ケース記録は利用者の方々の日々の生活の様子がわかるような記録ができるように努めた。

※アセスメントとケアプランの様式を変更し、現在使用している。
一目で全体が把握しやすいようにして、ケアプランの周知と確実な実施を目指している。

（8）その他

- ・平成29年6月より、特別支援学校の職場実習受け入れを開始した。
令和元年度は実際の雇用を目指し1名を2回受け入れた。
今後も受け入れを継続していく。

※令和2年度より古賀特別支援学校より1名を直接雇用する事を決定している。
（令和2年3月24日より勤務開始している）

(8) 研修実施

※介護技術向上の為の研修を各委員会、部会が中心となり実施した。

実施月	担当者	研修内容
4月	事務長・統括部長	新年度信愛会方針及び事業計画説明 介護保険制度概要説明 個人情報保護、虐待・身体拘束廃止説明
	安全対策委員会	特定行為実地研修
	麻生教育サービス専任講師	メンタルヘルス・プロフェッショナル研修 (法人全体研修)
	統括部長担当 (部門ごとに事務長・ 相談員・管理栄養士・介護リーダー)	新入社員研修 (今後1年間に渡り継続) ・各分野で座学から実地指導迄実施
5月	入浴・清潔ケア向上部会	特殊浴槽の使用方法和入浴介助方法の説明 個別入浴ケアについての検討会
6月	感染症・褥瘡防止委員会	褥瘡予防についての講義と個別ケアの検討会 (安楽な体位と使用物品の検討)
7月	相談員 (応急手当普及員)	救急時の対応についての検討会
8月	事故防止・身体拘束廃止委員会 相談員 (応急手当普及員)	リスクマネジメント (夜間帯を中心とした 急変時の対応について)
9月	相談員	人権研修 (身体拘束廃止や高齢者虐待防止)
10月	介護リーダー (防火管理者)	通報及び避難訓練 防災についての説明と消火器訓練 避難器具の取扱説明と実地訓練
	ユニ・チャームインストラク ター	・排泄ケアの基礎について講義 ・実際の排泄製品の特長と性能、有効利用に ついての説明と実技
11月	麻生教育サービス専任講師	ボディメカニクス、腰痛予防研修 (講義と実技) (法人内介護職・支援員)
	感染症・褥瘡防止委員会	感染症 (インフルエンザ・ノロウイルス) の 予防の基礎について 実地研修 (ガウンテクニック・手指洗浄と消毒 の基本)
12月	食事・口腔ケア向上部会	・口腔ケア研修の報告 ・各利用者への個別対応についての検討会
1月	相談員 (応急手当普及員)	救急救命講習 (実技)
2月	介護力向上委員会	外部研修参加者発表会及び検討会
3月	統括部長	認知症対応 (認知症施策推進大綱について)

※上記以外でも防災訓練や外部研修報告

委員会・部会からの報告や提案で介護方法の検討や統一、虐待防止、身体拘束廃止、
認知症についての検討等を実施

※平成26年度より、人財育成の強化を目指し、新入社員の教育強化を実施・継続している。
(中途採用者にも適用)

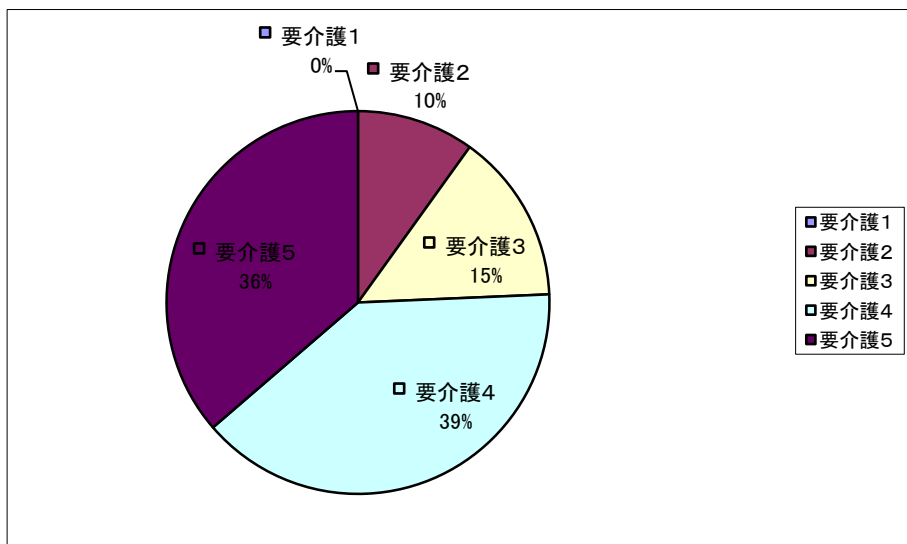
※外部研修にも積極的な参加を推進し、各人のレベルアップに努めている。

※資格取得のための施設内研修を実施して、合格者を出している。

【 特養・篠栗荘 】

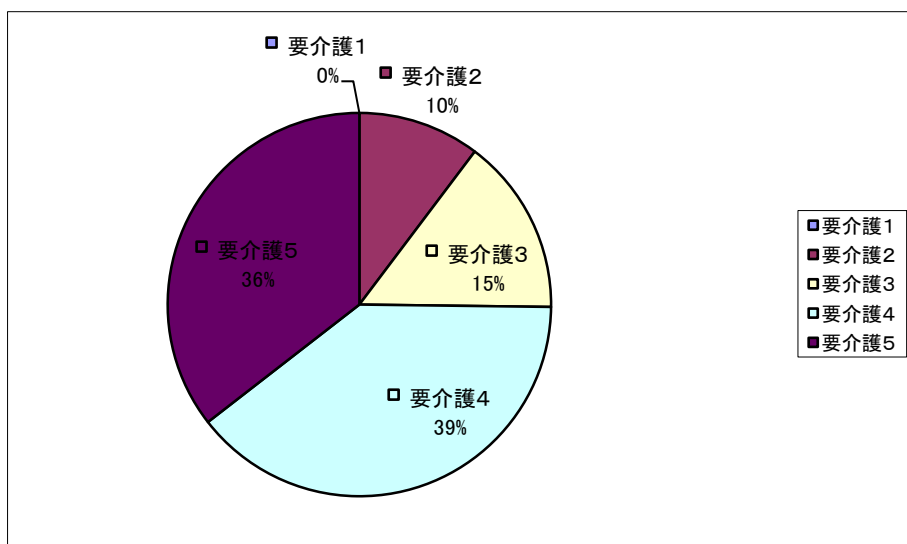
① 年間要介護度別利用人員

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	人	0.0%
要介護2	5	5	5	5	5	6	6	6	6	5	4	4	62人	9.9%
要介護3	7	8	8	9	8	8	8	7	6	7	7	7	90人	14.4%
要介護4	21	19	20	20	20	20	19	20	20	22	22	23	246人	39.4%
要介護5	19	20	20	18	19	20	19	20	19	17	18	18	227人	36.3%
合 計	52	52	53	52	52	54	52	53	51	51	51	52	625人	100.0%
平均介護度	4.04	4.04	4.04	3.98	4.02	4.00	3.98	4.02	4.02	4.00	4.06	4.06	4.02	



② 月別利用日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0.0%
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日	0.0%
要介護2	141	155	150	155	155	153	186	180	172	142	116	112	1,817日	10.3%
要介護3	210	248	240	259	217	236	248	185	182	190	203	217	2,635日	14.9%
要介護4	589	589	422	620	597	552	589	542	516	638	626	664	6,944日	39.3%
要介護5	521	482	504	558	550	557	580	512	493	479	507	530	6,273日	35.5%
合 計	1461	1474	1316	1592	1519	1498	1603	1419	1363	1449	1452	1523	17,669日	100.0%
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	
平 均	48.7人	47.5人	43.9人	51.4人	49.人	49.9人	51.7人	47.3人	44.人	46.7人	50.1人	49.1人	48.3人	
月平均													1,472.4人	ベッド稼働率 92.84%



③ 新規入所状況

1日平均

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	要介護1													人
	要介護2	1					1							2人
	要介護3										1			1人
	要介護4	1		1	1		1			1	2	1	1	9人
	要介護5		2						1		1			4人
	合計	2	2	1	1	0	2	0	1	1	4	1	1	16人

④ 退所状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	要介護1													人
	要介護2									1			1	2人
	要介護3								1					1人
	要介護4	1					1		1	1				4人
	要介護5	1		2			1		1	2	1			8人
	合計	2	0	2	0	0	2	0	3	4	1	0	1	15人

⑤ 入院状況（延べ日数）

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
	要介護1													日	
	要介護2													日	
	要介護3					31	4		17	5	31			88日	
	要介護4	20		10	18	27	6		32	85	18	27	47	290日	
	要介護5	48	101	51		39	19	3	54	53	6	32	28	434日	前年比
	本年度合計	68	101	61	18	97	29	3	103	143	55	59	75	812日	68.98%
	前年度数値	46	70	54	130	70	57	111	199	144	133	72	91	1,177日	

入所者（3月31日付）

	男	女		割合
40-64				
65-69	1	2		6.0%
70-74		2		4.0%
75-79		3		6.0%
80-84		5		10.0%
85-89	5	11		31.0%
90-94	2	14		31.0%
95以上		6		12.0%
合 計	8	43		

※全体平均年齢・・・87.8歳

※男性平均年齢・・・86.5歳

※女性平均年齢・・・88.04歳

要介護度（3月31日付）

要介護度			
	男	女	合計
要介護度1	0	0	0
要介護度2	0	3	3
要介護度3	2	5	7
要介護度4	4	19	23
要介護度5	2	16	18
計	8	43	51

※平均要介護度：4.1

保険者内訳（3月31日付）

保険者	人数	割合
篠栗町	40	78.0%
粕屋町	3	6.0%
福岡市	3	6.0%
須恵町	2	4.0%
飯塚市	1	2.0%
太宰府市	1	2.0%
大刀洗町	1	2.0%
田川市	1	2.0%

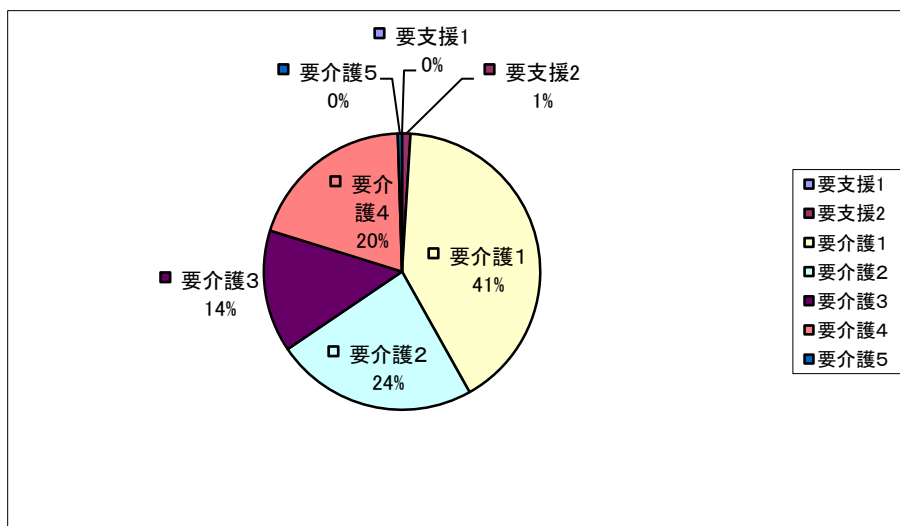
所得段階等（3月31日付）

所得段階	人数	割合
生活保護	4	7.0%
1段階	0	0.0%
2段階	7	13.0%
3段階	22	43.0%
4段階	19	37.0%
2割負担(4段階)	1	1.8%

【 短期入所(ショートステイ) 】

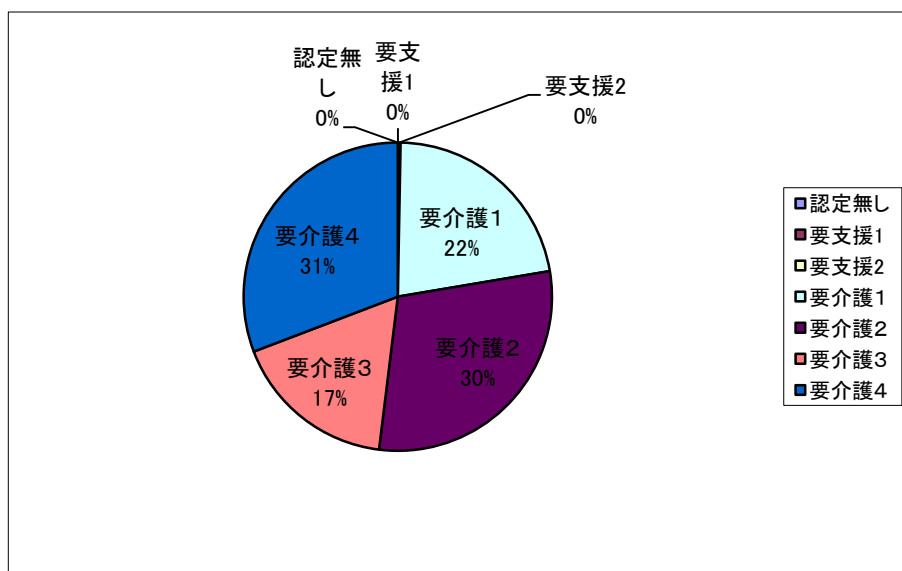
① 月別利用人員

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
介護保険														
要支援1													人	0.0%
要支援2							2						2人	1.0%
要介護1	2	3	10	7	8	10	6	7	9	7	7	7	83人	40.9%
要介護2	6	5	4	5	3	2	4	2	5	5	3	4	48人	23.6%
要介護3	3	4	4	1	3	1	2	2	3	3	2	1	29人	14.3%
要介護4	3	3	5	6	5	5	2	3	3	1	2	2	40人	19.7%
要介護5										1			1人	0.5%
合計	14	15	23	19	19	18	16	14	20	17	14	14	203人	100.0%
平均介護度	2.5	2.5	2.2	2.3	2.3	2.1	1.8	2.1	2.0	2.1	1.9	1.9	2.1	



② 月別利用日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
認定無し													日	0.0%
要支援1													日	0.0%
要支援2							6						6日	0.3%
要介護1	12	22	53	35	39	53	48	51	39	25	28	54	459日	22.0%
要介護2	63	71	65	57	65	31	41	29	51	45	37	61	616日	29.6%
要介護3	33	25	18	26	12	30	34	35	44	37	34	31	359日	17.2%
要介護4	62	66	66	86	83	71	39	62	26	9	35	36	641日	30.8%
要介護5										3			3日	0.1%
合計	170	184	202	204	199	185	168	177	160	119	134	182	2,084日	100.0%
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	
平均	5.7人	5.9人	6.7人	6.6人	6.4人	6.2人	5.4人	5.9人	5.2人	3.8人	4.6人	5.9人	5.7人	
月平均										173.66	稼働率		71.17%	



主な施設行事

月	日	行 事 名	場 所
4		花見ドライブ	篠 栗 町 内
4	6	花祭り	施 設 内
	20	歌謡ボランティア	施 設 内
6	9	資生堂化粧教室	施 設 内
7	20	篠栗荘夏祭り	施 設 内
9	1	篠栗町高齢者の集い	ク リ エ イ ト 篠 栗
	11	篠栗荘敬老会	施 設 内
	25	秋の彼岸法要	施 設 内
	29	資生堂化粧教室	施 設 内
10	9	篠栗荘運動会	施 設 内
	18	北部ブロック交歓大会	粕 屋 ド ー ム
	19	ハープ演奏会	施 設 内
11	9	かかし祭り見学	久 山 町
12	1	資生堂化粧教室	施 設 内
12	15	歌と踊りのむつみ会	施 設 内
	25	篠栗荘クリスマス会	施 設 内
1	1	篠栗荘新年祝賀会	施 設 内
	29	松鳳山関来荘交流会	施 設 内
2	1	節分豆まき	施 設 内
3	18	春の彼岸法要	施 設 内

※誕生会は各フロアで実施。

誕生者がいない場合でも茶話会としてレクリエーションも併せて必ず実施。

※毎月、喫茶、茶話会、デザートバイキングを実施

※その他、フロアに分かれて、カラオケや園庭散歩、レクリエーション等を随時実施

*** ボランティア訪問状況（延人数）**

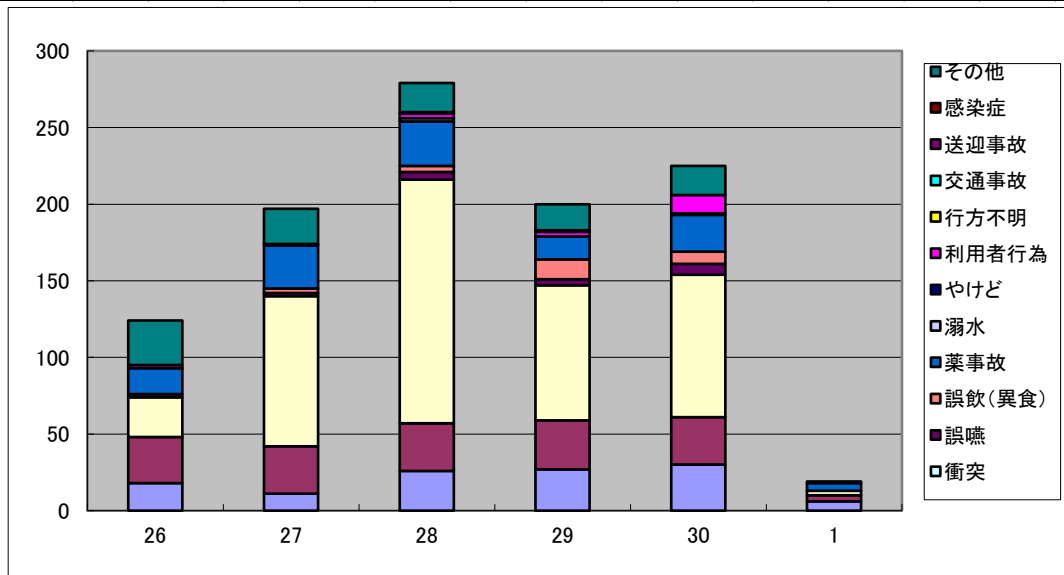
団 体 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
ふ れ あ い 会	7	7	9	7		9	7	6	9	8	8		77
カ ト リ ッ ク 会	15	16	16	16		14	17	17	18				129
演 芸 む つ み 会									18				18
歌 謡 ボ ラ ン テ ィ ア	13												13
車 椅 子 ダ ン ス						6							6
栗 の 子 保 育 園									31				31
ハーブ演奏ボランティア							4						4
そ の 他										5			5
合 計	22	23	25	23	0	23	24	23	45	13	8	0	229

*** 実習生受け入れ状況（延人数）**

団 体 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
教職課程大学生				5		10	5						20
管理栄養士実習			6										6
ヘルパー実習													0
介護福祉士実習			20	2									22
特別支援学校職場実習			8			8							16
福祉体験(中学生)						8							8
合 計	0	0	34	7	0	26	5	0	0	0	0	0	72

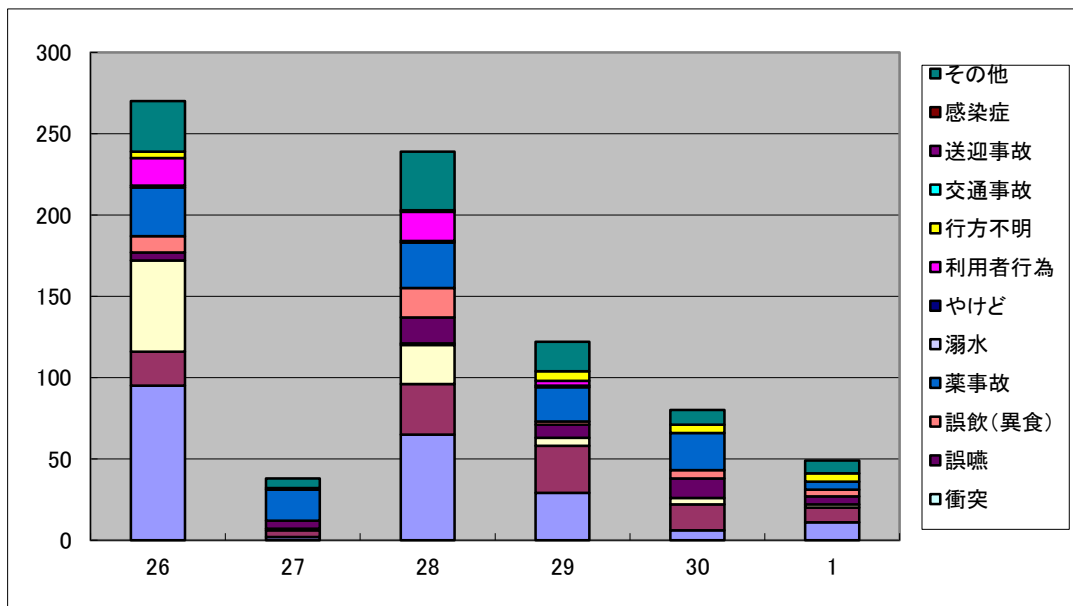
特養・短期入所事故報告書件数

年度	転倒	転落・落下	打ち付け・挟み込み	衝突	誤嚥	誤飲（異食）	薬事故	溺水	やけど	利用者行為	行方不明	交通事故	送迎事故	感染症	その他	合計
26	18	30	26	0	2	0	17	0	0	2	0	0	0	0	29	124
27	11	31	98	0	2	3	28	0	0	1	0	0	0	0	23	197
28	26	31	159	0	5	4	29	2	0	3	1	0	0	0	19	279
29	27	32	88	0	4	13	15	0	0	3	1	0	0	0	17	200
30	30	31	93	0	7	8	24	0	1	12	0	0	0	0	19	225
1	6	4	3	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	19



ヒヤリハット報告書件数

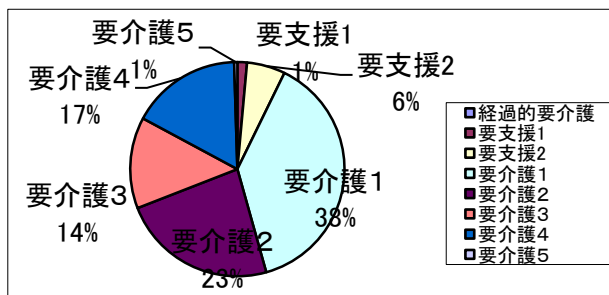
年度	転倒	転落・落下	打ち付け・挟み込み	衝突	誤嚥	誤飲（異食）	薬事故	溺水	やけど	利用者行為	行方不明	交通事故	送迎事故	感染症	その他	合計
26	95	21	56	0	5	10	30	0	1	17	4	0	0	0	31	270
27	2	4	1	0	5	0	19	0	0	0	1	0	0	0	6	38
28	65	31	24	1	16	18	28	1	0	18	1	0	0	0	36	239
29	29	29	5	0	8	2	21	1	0	3	6	0	0	0	18	122
30	6	16	4	0	12	5	23	0	0	0	5	0	0	0	9	80
1	11	9	2	0	5	4	5	0	0	0	5	0	0	0	8	49



【 ケアプランセンター・居宅介護支援事業 】

① 月別ケアプラン作成人員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
経過的要介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
要支援1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	6	1.4%
要支援2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	5.8%
要介護1	12	13	12	12	12	11	15	15	14	14	15	14	159	38.4%
要介護2	11	11	11	8	8	8	7	6	7	7	7	6	97	23.4%
要介護3	4	4	4	5	4	5	4	4	5	6	6	6	57	13.8%
要介護4	6	6	5	6	5	7	5	5	6	6	6	6	69	16.7%
要介護5	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.5%
合 計	36	37	34	33	31	33	33	33	35	36	37	36	414	100.0%
	2.1	2.0	2.1	2.1	2.0	2.2	1.9	1.8	2.0	2.0	2.1	2.1	2.0	



② 月別ケアプランサービス委託先内訳

	事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
月別ケアプラン作成人員		36	37	34	33	31	33	33	33	35	36	37	36	414	
訪問介護	こころ	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	8.7%
	レイクウッド	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	2.9%
	さわやか	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	2.9%
	ささぐり	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6	1.4%
デイサービス	篠栗荘ディ	11	10	12	10	9	12	15	15	15	17	18	15	159	38.4%
	れんげ荘	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	35	8.5%
	ケアパートナ	7	8	8	6	6	6	5	5	5	5	6	4	71	17.1%
	セシリア	4	4	4	3	2	2	1	1	1	1	1	1	25	6.0%
	パーム	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6	1.4%
	クローバー	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4	1.0%
	陽光苑	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	5.8%
	浜江苑	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	1.2%
デイケア	宏州整形	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	1.2%
	篠栗荘短期	6	4	5	5	6	5	4	5	5	3	4	5	57	13.8%
	陽光苑	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	3.1%
短期入所	浜江苑	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	1.2%
	ベストケア	11	10	9	5	6	6	5	5	6	6	6	3	78	18.8%
	セピア	8	10	8	9	9	7	8	8	9	9	8	6	99	23.9%
福祉用具	なんでも屋	1	1	1	2	3	4	3	3	3	3	4	2	30	7.2%
	パナソニック	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.7%
	アルク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.2%
	ドリーム	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.7%
	さわやか	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	15	3.6%
	ささぐり	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	13	3.1%
訪問看護	スマイルケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0.5%

③ 月別ケアプラン作成内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
新規利用	1	2	0	3	0	3	4	0	3	1	1	1	19	
利用中止者	0	1	3	4	2	1	3	0	1	1	0	1	17	
住宅改修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福祉用具購入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相談	2	0	2	1	2	1	0	2	1	1	2	2	16	
訪問	35	36	34	33	31	32	31	32	34	35	37	36	406	
モニタリング	34	35	33	32	30	31	30	31	33	34	36	35	394	
認定調査立ち会い	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	5	

利用者の食事状況報告 令和2年3月31日現在

○ 栄養ケアマネジメント状況

低栄養リスクレベルの判定状況 高リスク 0名・中リスク 4名・低リスク 47名

栄養ケアマネジメント実施状況 高リスク月2回・中リスク月1回・低リスク 3ヶ月に1回

経口摂取以外の方の状況 胃ろう造設者 3名

○ 行事食実施状況

実施月	イベント食	茶話会
4月	花見弁当	ココアケーキ
5月	端午の節句	フルーツパンケーキ
6月		フレンチトースト
7月	七夕 土用の丑 夏祭り	スイカ割り
8月	納涼そうめん	冷やしぜんざい
9月	敬老会	秋のお彼岸(おはぎ)
10月	秋の運動会	ハロウィン(南瓜のモンブラン)
11月		さつまいもとリンゴのケーキ
12月	クリスマス会 年越し蕎麦	デコレーションクッキー
1月	新年祝賀会(おせち1日～2日) 七草粥	鏡開き(ぜんざい)
2月	節分	和のパンケーキ
3月	ひな祭り	春のお彼岸(ぼた餅)

※ 毎月1日：お赤飯

※ 毎月1回：誕生会の日に、お祝い御膳(7.9.1月は除く)とバースデケーキ

〃 : デザートバイキング(10月は焼き芋パーティ、2月はチョコフォンデュ作り)

○ 通所介護事業(篠栗荘デイサービスセンター)

【利用者の概要】

平成31年度(令和元年)のデイ利用者の延人数は7409人、昨年は7268人であり、前年度比で141人増加。稼働率は79.7%となっています。利用者の増加人数は大きく増加はしてはませんが、昨年10月頃より要介護者の利用者が6名増えたことが好調の理由だと思われます。しかし2月よりコロナウイルス感染により、自主自粛される利用者が増え先の見通しが立たない現状があります。

総合事業の要支援者について、過去2年間の追跡調査をしました。2年前に要支援だった方が27名、2年後要介護認定になられた方が19名。約7割の方が要介護になられてました。別紙④に詳細を添付しております。新規利用者は要支援の方が多く、要介護状態での新規利用者は、施設入所できるまでの短期利用で、長期での利用ではありませんでした。今後も要介護状態での新規の利用は厳しいと思います。利用者の状況は、独居の利用者が増加しています。高齢者住宅や施設入所を除く在宅生活でされている登録者数53名のうち常時介護者が在宅におられる家庭は1名だけで、同居家族がおられる方も家族は働いている環境で日中は独居の状態です。今後も独居の利用者が増えていくことが予想されます。そのため今回のように、自宅待機と言われても安心して過ごせる方は少なく、デイサービス利用を希望されているため、今後は、コロナ等のウイルス感染に対して、利用者の命、安全を守りつつ運営していくための対策が急務と思われます。

【利用者への対応】

A. 基本プログラムの見直し

生活活動	在宅生活が継続できるように、役に立つ活動を増やしてきました。午前中の脳トレは定着し、他の利用者が入浴されている間の時間が有効に過されるようになり、今まで消極的だった利用者も取り組まれるようになりました。
機能訓練	利用者にとっての有効な訓練を一人一人に行えるように努力しました。また、機能訓練は、利用者全員が参加できる内容を一部変更し、皆で取り組めるようにしました。
レクリエーション	外出を楽しみにされ前半は活動してきましたが、コロナウイルス感染等により、出かけられない状態が続きました。日々のレクリエーションを工夫し、利用者が飽きないようにすること、密にならないようにを努力しましたが、耳が遠い利用者も多く、声が聞こえないなどの問題もあり、飛沫感染予防への対策を工夫する課題が残りました。
食事	委託業者の変更により、利用者からも好評で、「申し訳ないけど、前の業者の時はおいしいとは言えなかったけど、今はおいしいよ。」と話され、楽しみにされる利用者が増えました。食事の残菜も少なく、しっかりと召し上がられるようになりました。配食弁当を頼まれている方も多いので、昼食に温かい食事が楽しみだと言われます。今後も温かい食事の提供ができるように工夫していきたいと思います。
入浴	入浴を必要とされている利用者が多く、利用者の9割は入浴されます。コロナ感染により自粛要請となっても、入浴だけはお願いしたいとの声があり、総合事業の利用者には、午前中の利用に変更することで、リスクを減らし対応しました。
排泄	一人一人に合わせた対応を行うことで、排泄のリズムができるようになり、皮膚等のトラブルも少なくなりました。今後は、運動や水分摂取等総合的にも支援できることで、排泄のトラブルが少なくなるよう課題が残りました。

B. 健康管理

感染症ゼロを目指して	インフルエンザ等によるウイルス性感染はありませんでした。しかし 今後コロナウイルス感染症対策として、現在はインフルエンザ等による対策しかないので、新型コロナウイルスについて、利用者を守ると同時に職員自身も守れるように、知識や技術を学び一層感染予防をおこなう課題が残りました。
------------	---

C. 新規利用者の拡大

稼働率アップを目指して	稼働率79.7%。一昨年78.7%から増加となりました。稼働率は大きく増加していませんが、10月より要介護利用者が増えたことで、収益があがりました。また 入院者が少なく、安定して利用していただきました。しかし 年明けよりコロナウイルス感染により、自主自粛が増え、3月は利用者人数が先月の半分になり、見通しが見えない状態になりました。
-------------	--

D. 家族との関わりを深める

連絡や相談もお気軽に	送迎時の家族との関係作りに努力しました。気軽に相談をされることも増えてきましたが、職員によりばらつきがあり、すべての職員が同じように耳を傾け、家族の思いなどを感じられるようにする課題が残りました。
------------	--

E. サービスの改善・質の向上

介護力向上を目指して	介護職員はここ数年定着し介護力も安定していました。馴染みの職員がいることで、利用者も安心できる環境でしたが、今年度末には、中堅の職員の退職により、来年度は、経験年数の少ない職員体制となるため、介護力を低下しないように工夫し努力する課題が残りました。
------------	--

【委員会報告】

リスクマネジメント委員会	重大な事故案件はありませんでした。ここ数年事故案件がないため、職員自身、危機感が減ってきています。また ヒヤリハット報告書においても、報告件数が減りました。職員が危機意識をもって業務し、対応するまでには至りませんでした。
身体拘束廃止委員会	業務を遂行することを優先される場面があり、利用者へ口答での停止がみられました。利用者への安全を優先するばかりに、プライバシーへの配慮が足りない事案がありました。プライバシーと安全配慮の兼ね合いに課題が残りました。
苦情相談解決委員会	重大な苦情はありませんでしたが、転倒リスクが高い利用者の排泄介助の方法に行き過ぎた部分があり、相談がありました。日頃より家族との信頼関係を、スタッフ一人一人が送迎時間に時間をかけてコミュニケーションをとる努力をしていることで、相談の形で対応できました。しかし 職員の入れ替わりもあり、一日も早く、新しい職員と利用者や家族との関係をつくる課題が残りました。
感染症・食中毒対策	インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染等の感染はありませんでした。新型コロナ感染においては、自主自粛の利用者が増えたことで、一日の利用者が定員の半分以下になったことと、初春の時期であり、換気のため窓を開けての対策をとることが出来ましたが、今後冬場の対策が急務です。
災害対策	オアシス館内での合同防災訓練に参加し、オアシススタッフとの協力体制とともにスタッフ一人一人の役割を確認しました。

【 デイサービスセンター・通所介護事業 】 定数 30

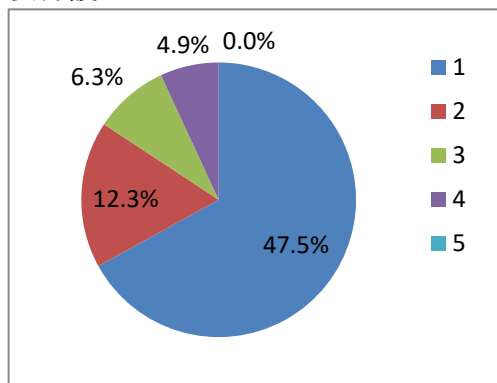
① 令和元年度新規利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合事業人数	1	0	0	0	0	0	2	2	1	2	0	0	8人
介護人数	1	1	0	1	0	0	4	0	0	2	0	0	9人
前年度人数	0	0	2	3	0	1	2	0	0	0	1	1	10人

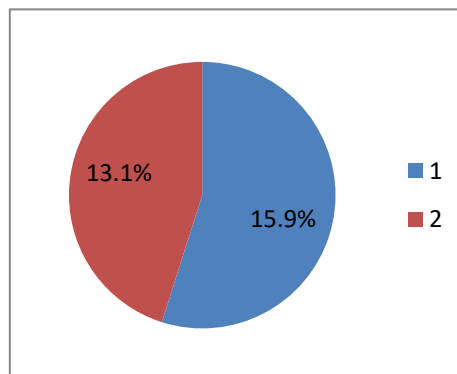
② 年間介護度別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
要介護1	282	313	257	289	276	255	309	321	315	307	312	286	3,522人	47.5%
要介護2	64	68	80	76	74	88	76	74	68	64	90	87	909人	12.3%
要介護3	34	37	37	54	28	31	46	43	41	41	40	32	464人	6.3%
要介護4	25	44	41	39	41	32	17	14	15	30	31	34	363人	4.9%
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	人	0.0%
介護合計	405	462	415	458	419	406	448	452	439	442	473	439	5,258人	71.0%
要支援1	117	116	108	96	77	84	90	106	99	81	108	99	1,181人	15.9%
要支援2	74	81	70	102	84	80	81	81	92	92	70	63	970人	13.1%
総合合計	191	197	178	198	161	164	171	187	191	173	178	162	2,151人	29.0%
総合計	596	659	593	656	580	570	619	639	630	615	651	601	7,409人	100.0%
実施日数	26日	27日	25日	27日	27日	25日	27日	26日	25日	24日	25日	26日	310日	
1日平均	22.9人	24.4人	23.7人	24.3人	21.5人	22.8人	22.9人	24.6人	25.2人	25.6人	26.人	23.1人	23.9人	
1日平均	76.4%	81.4%	79.1%	81.0%	71.6%	76.0%	76.4%	81.9%	84.0%	85.4%	86.8%	77.1%	79.7%	
前年度	636	667	604	611	573	564	630	650	581	576	582	594	7,268人	

要介護

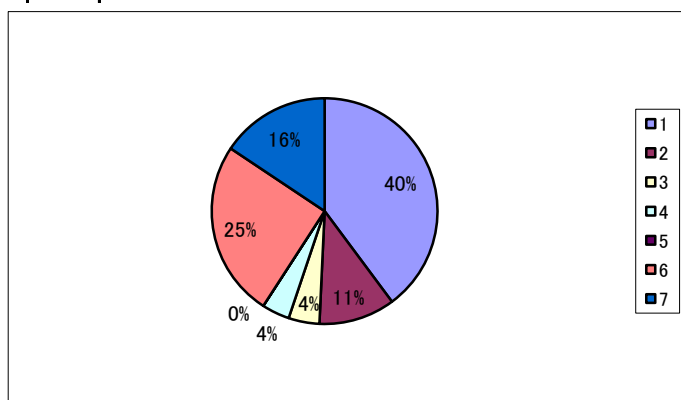


要支援



③ 月別登録利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
介護1	21	20	21	20	22	22	24	26	25	25	23	21	270人	39.8%
介護2	5	6	6	5	5	7	6	6	6	6	8	8	74人	10.9%
介護3	2	2	2	3	2	2	3	3	3	3	3	2	30人	4.4%
介護4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	27人	4.0%
介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	人	0.0%
要支援1	15	14	15	13	11	11	13	15	15	16	17	16	171人	25.2%
要支援2	8	8	8	10	9	9	9	10	10	10	8	7	106人	15.6%
合計	53	52	54	53	51	53	57	62	61	63	62	57	678人	100.0%
前年度	60	57	56	59	53	54	55	58	55	52	54	55	668人	



④ 過去2年間の要支援者追跡調査

30年4月要支援から介護に変更になった件数	要支援時ケアプランセンター	要介護変更後のプランセンター	要介護に変更後のサービス内容
1	委託A	引き続き	デイサービス利用継続
2	町包括	Sケアプランセンター	老健入所
3	委託A	引き続き	デイサービス利用継続
4	町包括	Sケアプランセンター	老健入所
5	町包括	Sケアプランセンター	デイサービス継続 ショート利用追加
6	委託A	引き続き	デイサービス利用継続
7	町包括	Aケアプランセンター	サ高住入所デイサービス利用継続
8	委託B	引き続き	デイサービス利用継続
9	町包括	Aケアプランセンター	他町グループホーム入所
10	委託C	引き続き	デイサービス利用継続
11	町包括	Aケアプランセンター	デイサービス利用継続
12	町包括	Dケアプランセンター	デイサービス利用継続
13	町包括	Sケアプランセンター	グループホーム入所
14	町包括	Sケアプランセンター	長期入院
15	町包括	Sケアプランセンター	長期入院
16	町包括	Aケアプランセンター	デイサービス利用継続
17	町包括	Sケアプランセンター	デイサービス利用継続

養護老人ホーム 篠栗敬光園

平成31年度事業報告

利用者ひとりひとりの生活支援に関わり、個々の生活歴やADL・思いや感情に寄り添い、お互いに思い合える関りを大切にすることができました。また試験的ではありますが買い物支援を実施し、地域の方たちとのふれあいを増やすと同時に地域福祉に携わる活動を行うことができました。

措置控えの様相は依然変わりませんが行政区や地域包括支援センター、更生保護施設や地域生活定着支援センター等へのかかわりやつながりを深め、強めることで、徐々にではありますが6名の新入所を迎え入れることが出来ました。一方で疾病や高齢化から死亡退所者が3名ありました。今後の社会情勢や団塊世代の高齢化により、セーフティネットの役割を持つ養護の必要性は高まることと思います。

支援部門

- ・ 日々の介護予防体操の継続を心がけ、ゲーム等工夫をすることで、飽きずに楽しみながら健康維持に努めることが出来ました。
- ・ 四季を感じ楽しめるイベントや行事になるよう、創意・工夫を凝らし利用者が喜んで参加して頂ける余暇活動に取り組みました。
- ・ 介護サービスを適時・適切に取り入れることで、利用者の不安や負担の軽減、日常生活の活性化につなげる事が出来ました。
- ・ ひとりひとりの利用者の悩みや不安を共有し、寄り添う相談・援助に努めました。
- ・ 地域との交流や、ボランティアの方たちとのふれあいを大切にしました。

看護部門

- ・ 利用者の日頃の状態を把握し、スタッフと情報の共有をする事で異常を早期に発見することに努めました。また、病院との連携がスムーズに行えました。
- ・ 口腔内の衛生管理に努め嚥下状態を把握することで、食形態を検討し肺炎予防に努めることが出来ました。
- ・ 日頃のコミュニケーションをとる事で個々の精神面にも配慮した説明、対応をするよう努めました。
- ・ ADL維持向上、生活不活発病の予防の為、日頃から利用者へ運動・レクリエーション参加等の必要性を推奨するよう努めました。

栄養部門

- ・ 給食会議を通して引継ぎ・申し送りを細かく行い食事の提供に努めました。
- ・ 日々の観察や嗜好調査から、利用者の趣味・嗜好を把握しメニューを提案することが出来ました。